

## 1 熊野古道（伊勢路）に91,628人！！

東紀州地域活性化事業推進協議会によると、旅行会社、東紀州8市町村への聞き取り調査、各峠での入り込み客調査などを集計した平成14年度の熊野古道（県内14コース）来客者数は、91,628人と前年に比べ8,739人（前年比10.54%）の増で、調査を始めた平成8年以降では、東紀州体験フェスタのあった平成11年度の141,051人に次いで2番目に多い結果となりました。

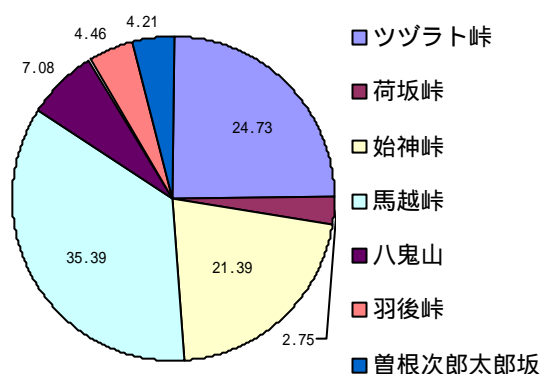
古道別では、苔むす石畳道が人気の「馬越峠」が19,325人で一番多くなっていますが、前年からは1,694人の減となっています。逆に、前年からの増加が目だったのは「始神峠」で、4,686人から11,860人と約2.5倍の増となっています。

ちなみに、紀北7峠では54,610人と前年に比べ5,488人（11.17%）の増となっています。

### 紀北7峠別来客者数の推移

	H14	H13	増減数
ツツラト峠	13,505	10,328	+3,177
荷坂峠	1,500	3,252	1,752
始神峠	11,680	4,686	+6,994
馬越峠	19,325	21,019	1,694
八鬼山	3,867	4,639	772
羽後峠	2,435	1,426	+1,009
曾根次郎太郎坂	2,298	3,772	1,474
合計	54,610	49,122	+5,488

### 平成14年度 紀北7峠別来客者数割合



## 2 蟻の熊野詣！



（2基で約3tあるそうです）

4月27日（火）、紀伊長島町三浦の宮川第2発電所グラウンドに、高さ7mを超えるアリの夫婦が現れました。

これは紀伊長島町の燈籠祭実行委員会が設置したもので、昨年の祭りのテーマであった「熊野古道」のシンボルとして制作された大燈籠です。

今年も7月26日（土）に燈籠祭（今年のテーマも「熊野古道」で、大燈籠には熊野三山に神の使いとして祭られている八咫鳥が予定されています。）が開催されることから、そのPRと熊野古道の世界遺産登録に向けたPRを兼ね「始神峠」の入口付近に展示されています。

夜にはライトアップされ、暗闇にアリが浮かび上がる幻想的な雰囲気味わえます。

## 3 『野口雨情』歌碑完成！

世界遺産を目指す熊野古道の「歴史と文化」についての認識を深め、住民参加の個性豊かなまちづくりを進めることを目的に、熊野古道リレー講演会が3月に開催されました。

3月30日の最終日には、「尾鷲小唄と野口雨情」と題した講演会が開催されましたが、これに先立ち尾鷲市内を見渡せる馬越峠入口に建設された野口雨情の歌碑の完成を祝う除幕式が行われました。古道散策の癒しの場としての効果も期待されます。



（文字は尾鷲小唄の歌詞）

## 4 協働プロジェクト・パートナー会議開催！

本年3月に公表された熊野古道アクションプログラムの趣旨に賛同いただける個人を対象にアクションプログラムに記載されているプロジェクト（下記 A、B、C、D）の具体化に向けての『協働プロジェクトパートナー』を募集したところ、41名の応募があり、その第1回協働プロジェクト・パートナー会議が6月9日に三重県尾鷲庁舎5階大会議室で開催されました。

当日は平日の夜間開催にもかかわらず、協働パートナー、各分野の専門家（サポーター）、行政職員、事務局職員約50名が集まり、アクションプログラムの概要説明、各プロジェクトの企画案説明などの全体会議に引き続き、プロジェクトテーマごとの検討会が実施され、参加者それぞれが熊野古道に対する想いやその魅力、世界遺産登録に向けての保全・活用案を発表するなど、活発な意見交換が行われました。



（全体会議）

= 協働プロジェクト =

### A：世界遺産登録記念イベント

主な意見

熊野古道に関しては内（地元住民）へのPRが必要、外（地域外住民）に対しては熊野古道だけでなく地域全体のPRが必要

「内向き」「外向き」イベントの両立は難しい。どちらを目指すのか？

イベントが必要か？ 地域が実施するイベントを連携させる「しかけ」を考えた方がよいのでは

### B：熊野古道宿坊

主な意見

今年度中に古民家宿坊1棟をオープンさせたい

次回は古民家再生の具体的なイメージを得るため、県内の先進事例を視察する

### C：熊野古道ルール

主な意見

ルールを普及・定着させ熊野古道保全意識の向上を図りたい

皆に理解してもらえよう単純で短い言葉がよい

ゴミの持ち帰り等環境マナーについてPRしていく

上高地のように巡視員等のパトロールを実施しては？

有料トイレの検討も必要

### D：熊野古道センター

主な意見

紀南地域には整備しないのか？

古道センターからの情報発信が必要である

宿泊施設を併設してほしい



（熊野古道センター）

今後は、テーマごとに月1～2回程度ワーキングが開催され、具体的な内容の検討に入ります。

なお、この『協働プロジェクト・パートナー』の募集は、平成15年5月20日で応募を締め切っていますが、各プロジェクトの企画実行に参画希望の方は事務局（三重県地域振興部 東紀州活性化・地域振興プロジェクトグループ：059-224-2193）へお問い合わせください。

# 連載（第6回）（未発表熊野古道古文書）

（この連載は副会長の野田敦美さんによるものです）

## 熊野街道の盲人たち その2

前回の奥熊野早田浦（現尾鷲市早田町）から勢州伊高郡塚元村（現松阪市塚本町）まで送られていった盲人の一件の他に、勢州渡会郡河崎（現伊勢市河崎町）の遠山検校の弟子の勢州渡会郡山田（現伊勢市辻久苗町他二十一町の外宮門前町の総稱）の順亮と申す盲人が、紀州牟婁郡大泊村（現熊野市大泊町）から山田へ、伊豫松山（現愛媛県松山市）の田頭検校弟子の勢州安芸郡白塚村（現津市白塚町）の栄春と申す盲人が、紀州津荷村（現和歌山県本宮町大津荷か）から白塚村へ、行野浦から上貴志村へ送られていった三件ある。以下は行野浦からの一件である。

### 送り状の事

紀州那賀郡上貴志之庄

小倉組神戸村

吉田源吉悱

盲人 良 秀

年 二十七才

一 右の者官職相具候えども、自力に及び難く、他力を以て成就仕り度く、他国順曆のため天保九戌三月在所出立仕り、諸国順在、当五月二十九日、尾鷲組行野浦まで罷り越し候ところ、持病の疔癩相発り、歩行難渋の趣きにつき、余儀なく今日まで止宿致させ、服薬介抱候えども、急々快気も相見え申さず、殊に当人も、私持病の儀はいずれも急々に快気相成り難く候間、何卒御村方の御助情を以て、在所へ畏み贈り届けに相成り候はば、忝く候段、願い出で候につき、その段、支配人庄屋役所へ相伺い、所持の往来手形目改め、当村へ送り出で候間、順路村々、宿継ぎ人足、猶又一宿一飯の御合力をも成し遣わされ候様戻し度く、これに依り送り状件の如し。

奥熊野尾鷲組

行野浦肝煎

長之助 印

同 所庄屋

善 六 印

天保十五年辰六月七日

奥熊野行野浦より

紀州那賀郡上貴志村まで

右村々宿々

役人衆中

右の通り相違これ無く候

奥熊野尾鷲組

大庄屋役所 判

前回の早田浦へきた盲人琴声については「口上」一通だけだったが、この良秀は「送り状」の他に三通の書状をもっていたのである。一通は「宮田検校良秀名附状」で、弟子になりたいの願いにより、名を「良秀」と改めさせた。そして「紀州島本検校下宮田歌勢の弟子」だと、どこの国においても名乗り、何かと申す者あらば、この状をもつて申し披きをせよと記し、この状を良秀へ遣している。天保八年の良秀二十才のときである。

二通目は「免状一札之」で、当道の元祖は光孝天皇の子で、末世の盲人を憐み給い、城一検校と勅許下し給わった。これより当道の官位が相増し、昇進仕事は元祖王子の之恩と恐れ尊み奉るべしとある。良秀とは直接関係ないが検校の権威を述べている。

もう一通は、百姓たちが旅にでるとき、庄屋や旦那寺が出札していた「往来一札」に当たるもので、「紀州若山 寫本検校」が出している。「官職昇進仕度く候えども、自力に及び難く、他力をもつて成就仕り度き旨願い出で候につき、諸国順在に差し出し」と記し、各様方の御厚情をもつて手引き休泊、川々の船渡し等に至るまで御心添えを伏してお願いするとある。そして宗旨、若し万一のときの作

（次頁に続く）



法も記している。「天保九年戊三月十一日」「諸国御関所御役人衆中、在々浦々町々御役人中」と形式内容は百姓たちの往来一札と変わらないが、神戸村の庄屋、寺でもなく、師匠の検校が出しているのである。

他の盲人順亮、栄春も三通の文書をもっていて、検校の弟子としての証明になる文書などで、同型式で文書まで同一のものもある。

これらの文書から「検校」の名の強さを感じる。特権が認められていたのだろう。

良秀が他国順曆、順在に出たことは、検校の官職の昇進のためではないだろうか。それに盲人の身でひとりやってきたのは、「他力をもって成就しり度く」からみて、附添がいたのではないか。

和歌山から熊野街道の紀伊路を峠しい中辺路を通り、本宮へ来て、小雲取、大雲取の険峻を越え、修行のための身、熊野川を舟で下ることなく、伊勢路に入り、いくたの峠、川を越えてきて、西国一の難所八鬼山を下りたところで、右の脇道に入り、向井、大曾根を通りぬけて行野まで二ヶ月半程かかってやってきた。官職昇進のために、いつそこの苦行の道を自ら選んだのだろうか。そこで持病の疔瘡がおり、歩行困難になり、六月七日まで一週間程止宿させ、服薬介抱してきた。しかし早々とは治らないし、本人もそついうので送り戻すことになったという。二ヶ月半程かかった道すじを介添があつても在所まで帰ることの大変さを思いやる気ではいっばいである。



## 5 熊野古道でトイレ考

現在、三重県ホームページのe-デモ会議室「“遊び”のくにづくり」(<http://www.e-demo.pref.mie.jp/MailBBS/eDemo/9asobi/>)では、熊野古道のトイレに関し、活発な意見交換が行われています。トイレの必要性や重要性、バイオトイレなどの様々な意見がでています。6月にはそれまでの意見を整理しとりまとめた「『熊野古道でトイレ考』読本」(<http://www.e-demo.pref.mie.jp/MailBBS/eDemo/9asobi/Shared/kumanokodo-toilet.doc>)が作成されましたので、熊野古道に関わる皆様には是非ご覧いただき、意見交換にもご参加いただければ幸いです。

## 編集後記

新年度を迎え、当協議会事務局では職員の人事異動があり、新担当者となって今回が最初のニュースの発行となりました。4～5月は取材を兼ねていくつかの峠を歩きましたが、古くは石畳や洗い越し、最近では橋や案内板の設置や清掃活動など、今も昔も変わらぬ地域の方々の来訪者に対するおもてなしの心、古道の保全・活用に対する思いがひしひしと伝わってきました。

今は「尾鷲名物の雨？」梅雨の季節となってしまいました。梅雨が明けると夏休み、秋の行楽シーズンを迎えます。秋には東紀州地域が一体となった世界遺産登録推進イベントの開催が予定されていますので、この機会にぜひ地域のもてなしをご体験ください。



始神峠のアジサイ

発行元 世界遺産登録推進紀北地域協議会事務局  
〒519-3695  
尾鷲市坂場西町1-1 三重県紀北県民局企画調整部内  
電話 0597-23-3409  
FAX 0597-23-2130  
URL <http://www.pref.mie.jp/OKIKAKU/HP>